

## 2022 年度「講座・企業家学」の紹介

伊藤 博之

大阪経済大学教授

今回、「FES 便り」に「講座・企業家学」に関する文章を初めて寄せます。講座・企業家学は、企業家研究フォーラム設立 10 年を記念して、大阪商工会議所との連携事業として 2012 年に開始された、一般の方々へ向けた企業家研究に関する講演シリーズです。以来、コロナ禍の中でも欠かすことなく、毎年 6 月と 11 月の土曜日に、大阪企業家ミュージアムを会場として、好評のうちに開催されてまいりました（コロナ禍中はオンライン開催でしたが、今年度より対面形式に復帰しました）。その間、本フォーラムの特長を活かして、経営史と経営学の分野から起用される講師のバランスをとりながら、様々な企業家や関連するテーマを演題に取り上げてきました。

### 2022 年 6 月開催の「講座・企業家学」の振り返り

講座・企業家学の企画は、企業家研究フォーラム総務委員会が担当しています。今回より、同講座の企画は、江島由裕総務委員長（大阪経済大学）の下、柴田淳郎（滋賀大学）、松原日出人（中京大学）、伊藤博之（大阪経済大学）の 3 名が担当することになりました。

全員が初めての担当ということもあり、6 月の統一論題の設定には大変迷いましたが、2022 年度は、「講座・企業家学」開設 10 年目ということもあり（大々的にそれを謳うことはできませんでしたが）、企業家学の全体像を垣間見せることを目的にすることで意見がまとまりました。そして、今年度 6 月の統一テーマを「企業家学の論点」として、『企業家学のすすめ』（有斐閣）の執筆者から講演者を選出することも方針としました。結果として、経営理念（田中一弘教授・一橋大学）、女性企業家（鹿住倫世教授・専修大学）、ファイナンス（粕谷誠教授・東京大学）、産業集積（加藤厚海教授・岐阜大学）を切り口にした講演を、各氏に依頼しました。

以下、各氏の講演の内容を簡単に振り返ります（以下の概要は各講座を聴講した伊藤の視点からのまとめとなります。ただし、加藤教授の講演は資料に依拠しています）。

田中一弘教授の講演は、「経営理念提示型企業家：渋沢栄一、松下幸之助、稲盛和夫」と題されたものでした。講演は、経営理念や経営者の役割の「そもそも論」から始まり、その後、渋沢栄一、松下幸之助、稲盛和夫 3 氏の経営思想の形成プロセスをたどるとともに、理念が経営に必要な理由が説明されました。講演内容は、時に、哲学的で深く大きな論点に及びましたが、使わ

れる言葉はいずれも平易なもので、講演は終始一般の方にもわかりやすいものでした。さらに、『企業家学のすすめ』の論考から進んだ考察も紹介されました。それは、渋沢栄一の公益に関する思想（より一般的には「経営理論」と「経営哲学」の違い）を掘り下げたもので、渋沢が他者には自分自身に対するより寛容な姿勢をとっていたことを新たに指摘するものでした。そのことが渋沢の影響力を高めた理由の一端であることを興味深い論点として拝聴しました。

鹿住倫世教授の講演「女性企業家：ロイヤルブルーティージャパンの吉本桂子」では、まず、女性起業家の活躍状況の国際比較が提示され、我が国での女性の企業家が少ないことが確認されます。また、そこに留まらず、女性企業家の特徴として、日常的気づきや趣味の延長などからの起業が多いという洞察も提示されます。事例として提示された吉本氏も、「お茶」教室での出会いが事業活動の端緒になった点に、女性企業家のそのような特徴が反映されているとみることができます。吉本氏は、当初、お茶の入れ方やそれに伴うサービスを提供することを事業とする予定でした。しかし、「無名の人物がそのようなサービスを展開することにはハンディが伴い、むしろボトル化した高級茶の販売を目指すべきでは」という鹿住教授の発言に気づきを得て、吉本氏は、事業をピボットさせます。その結果、ボトル入り的高级茶という新しい発想のブルーオーシャンの創設に成功することになります。鹿住教授には、今回の講演のために吉本氏に改めて追加取材をされ、現在の経営についての情報も補足していただきました。その内容は、講演会でしか聞けない貴重なものでした。

粕谷誠教授の講演は、「ファイナンス：安田善次郎と野村徳七」と題したものでした。講演では、最初に金融の仕組みと、その中での銀行業と証券業の機能を確認することから議論が盛り起こされました。また、江戸時代の通貨流通の仕組み、特に、金貨、銀貨、銭の流通とその為替取引における両替商のあり方に言及され、そこから、安田善次郎の銀行業と野村徳七の証券業の起源と展開を、大きな歴史的な視点のなかに読み解いていきます。歴史的にみると、上層の両替商が銀行に進出し、下層の両替商が証券業に展開したことが指摘されます。また、そうした背景で、証券業に展開した野村は銀行業に進出することを目指すこととなった一方で、安田が証券業に向かうことがなかったことが説明されます。受講者は、歴史の流れを感じることができたと思います。

最終回の加藤厚海教授の講演は、「タイにおける日系企業の産業集積の形成：自動車メーカーとサプライヤーの動向を中心に」がテーマとされました。講演内容は、日本の自動車生産の一大拠点となっているタイにおける産業集積の現状を描き出すデータを提示されることから始まりました。次いで、主要な自動車サプライヤー（トヨタ系、デンソー系、日産・ホンダ系、マツダ系、三菱自動車系）のタイへの展開の特徴が比較されます。最後に、そうした企業活動の受け皿となる地域に視点を移し、日本人町（シラチャ）の形成が議論の俎上に載せられます。そこでは、現地駐在員の生活の様子も描かれました。日本企業の海外展開についての漠然としたイメージは、受講者の方々もお持ちだったでしょうが、具体的な海外展開の状況、サプライヤーの系列ごとの違い、さらに、現地での生活の基盤（日本人町）に関する情報は、一般の方々にとって斬新なもの

であり、いろいろな気づきを得るきっかけになったものと想像できます。

以上の講演につき、時間の許す限り出席させていただきましたが、受講者の方々の熱心な聴講の様子が特に印象に残りました。

#### 2022年11月の講座の紹介

2022年11月の講座・企業家学は、本稿の公刊時には既に終了している予定ですが、「伝統産地の企業家」が統一テーマとなります。伝統産地は、過去も現在も企業家により変革を成し遂げ、その存続が図られてきました。当フォーラム会員の研究でも、伝統産業産地の事業システムの形成や革新の背後には企業家がいること、また先導的な企業家を模倣する企業家の登場によって産地の事業システムがつくりかえられてきたこと等が様々に論じられています。一般の方々や伝統産業に関わっておられる人々に、伝統産業でも企業家活動やイノベーションは内生的なものであることを知っていただきたいという思いを企画に込めました。講師は、当該分野の研究でご活躍の以下の方々にご担当いただきます（以下、講演日順）。

山田雄久教授（近畿大学）には「有田焼産地の発展と戦後の国内市場向け陶磁器生産：十代深川栄左衛門・深川正の企業者活動を中心に」、我戸正幸氏（株式会社我戸幹男商店代表取締役）には「伝統工芸に求められるITリテラシー：山中漆器産地の経験を通して」、秋庭太准教授（龍谷大学）には「鯖江眼鏡の歴史と起業家の役割」、曾根秀一教授（静岡文化芸術大学）には「刃物産地の新時代を築いた企業家：日本とドイツの伝統産地を中心に」という各タイトルで講演をしていただきます。なお、我戸正幸氏は、山中漆器の伝統を踏まえながら現代風のデザインの漆器を生産され、その他様々な斬新な取り組みをされている、同産地の先駆的な企業家です。

#### 最後に

今年度（2023年度）の講座の企画準備も順調に進んでいます。そちらについてもホームページでしかるべき時期に告知されることとなりますので、是非一度ご覧いただきたいと思います。そして、講座・企業家学への受講を学生やご存知の方々へ呼び掛けていただければ幸いです。もちろん、企業家研究フォーラム会員のご参加も歓迎しております。

また、今後、広く会員の皆様には、研究の履歴などを踏まえて、本講座の講師を依頼することもあるかと存じます。それは、皆様の日頃の研究の成果を一般の方々に還元するとともに、大阪企業家ミュージアムの活動の一翼を担う有意義な機会ともなります。その節は、是非、快くご協力をいただきたいと存じます。

最後になりますが、今年度のご講演をいただきました方々や次年度の企画のご担当をお引き受けいただいた方々にお礼を申し上げます。また、講座の広報と運営に関しては、大阪企業家ミュージアム事務局に全面的にご担当いただきました。そのことについても、ここに記して感謝申し上げます。

